

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第1区分

【発行日】平成22年7月29日(2010.7.29)

【公開番号】特開2009-266511(P2009-266511A)

【公開日】平成21年11月12日(2009.11.12)

【年通号数】公開・登録公報2009-045

【出願番号】特願2008-113396(P2008-113396)

【国際特許分類】

H 01 H 33/66 (2006.01)

【F I】

H 01 H 33/66 N

【手続補正書】

【提出日】平成22年6月16日(2010.6.16)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

真空状態を維持する絶縁容器内に、通電導体の先端に固定した固定電極と通電導体の先端に固定した可動電極とを、各接触面を対向させて配置してバルブ本体を構成し、前記可動電極の通電導体の操作系統に圧接ばねを備えた真空遮断器において、前記操作系統に補助圧接ばねを設け、前記補助圧接ばねは、可動電極の遮断動作の途中でばね圧力の付勢が終了し、かつ投入動作の途中からばね圧の蓄勢を開始するように配置して構成したことを特徴とする真空遮断器。

【請求項2】

請求項1において、前記可動電極の通電導体に前記操作系統の一部をなす中間連結棒を係合させ、前記可動電極の通電導体と中間連結棒との係合部に、前記圧接ばね及び補助圧接ばねを同心配置して構成したことを特徴とする真空遮断器。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0015

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0015】

好ましくは、前記可動電極の通電導体に、前記操作系統の一部をなす中間連結棒を係合させ、前記可動電極の通電導体と中間連結棒との係合部に、前記圧接ばね及び補助圧接ばねを同心配置して構成したことを特徴としている。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0025

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0025】

その上、固定電極12と可動電極15との間に接触圧力を加える圧接ばね20及び補助圧接ばね21は、係合部16Aに同心的に配置している。補助圧接ばね21は、その一端を中間連結棒19の端部に設けたばね受け座23に支持させ、他端を通電導体16の下端

部に摺動できるように配置した摺動ばね受け座 24 に支持させる構成にしている。

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図2】

図 2

